



審査委員特別賞

講評： 神戸に建つ、築25年の公団住宅の住戸改装である。ひとり暮らしの施主(男性)の要望に対し、設計者は収納を中央にまとめてその回りに居室スペースを配し、ぐるりと回れるようにした。この収納体は、「小上がり」やベンチまでをくみこんだ装置であるが、中央部をくり抜いたことで開放感を生み、部屋全体を広く感じさせている。通常、壁式の公団住宅でワンルーム化リフォームを考えると、必ず何ヶ所かで現れる構造壁がプランニングや開放感を制約することが多い。しかし本作品では、この収納体に取り込むことで壁の存在感を消すのに成功している。そればかりでなく逆に居心地の良い入隅や背もたれスペースを生み出して、風・光が部屋全体に隈無く流れ渡る、気持ちの良い住戸空間を造り出す源になっている。収納はどの面からも無駄なく使い、結露の発生をも防いでいる。収納体回りのスペースは、適度に視線や空間が区切られ、開放的であるにもかかわらず、意外に住みやすそうな印象もある。

コストを抑えるため、収納体は大工工事、建具は最小限、床は合板張りとしたうえで、内部の仕上げ塗装はDIYが好きな施主自らが行うなど、関係者全員が一体になって格闘したあとが伺える。その分仕上がりに荒さも見られるが、若い世代の新しいセンスによる、リフォームならではの楽しさの表出と捉えることもできる。空間構成がしっかりしているので、どんなふうに使っても、あるいはさらに手を加えていったとしても、この空間性は崩れないと想像できる。水回りも位置はほとんど変えていないが、トイレ、洗面・脱衣を一室にして、居室側とバランスの取れた開放感を持たせている。大映像が投影されたスクリーン代替りの白壁の扱い方などは、空間をこだわりなく使いこなす

世代の擡頭を感じさせる。

一見改装自由度の低そうな公団住宅にも、まだこのような生き生きとしたリフォームが可能であることを示したこの作品の意義は大きい。ひとり暮らしという条件下ではあるが、家族向けの住戸や戸建て住戸にも応用できそうである。現場監理も献身的におこなった若い設計者とそれに応えた施工者、若い施主との共同作業によって、ひとつの「プロトタイプ」を抽出した点は、奨励に値するものと評価した。



リフォーム前後の写真



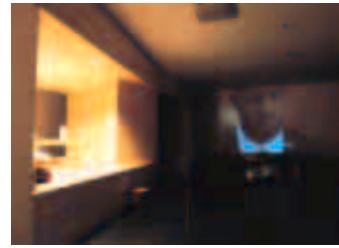
既存 ①



既存 ②



⑥



⑦正面の壁に映画が映しだされる



⑧



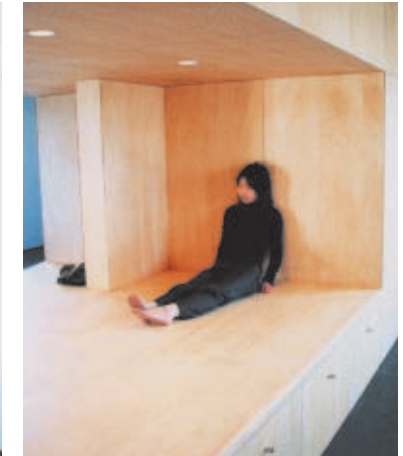
⑨



③



④



⑤

リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

新たに築25年になる中古マンションを購入

- ・一人で住む為、ワンルームとして使いたい。
 - ・仕事場として使えるよう生活感を感じさせない空間
 - ・プロジェクターで壁一面に投影、収納を多めに
- という要望でした。

住戸内部がRCの壁構造だったため、元の部屋の仕切り壁がそのまま残ってしまい、物理的にワンルームとすることが出来ない所から始まった。

特に配慮した住宅性能：

データ

所在地	兵庫県神戸市	構造/築後年数	鉄筋コンクリート 造/ 25 年
該当工事面積	65.70 m ²	該当部分工事費	300 万円
居住者構成	1 人 (大人 <15歳以上)	1 人 子供	人 ペット
設計者	SWITCH 一級建築士事務所	担当者	田中 淑恵・内藤 玲子
施工者	(有) 大路工務店	担当者	大路 泰司

敢えて真ん中に収納をボリュームとして持ってくることで収納の周りのスペースに一繋がり空間を生み出している。
そして、その収納体の真ん中をくり貫き、小上がりのスペースとすることにより、収納体自身が額縁となり視線の抜けや奥行き感を演出し、部屋全体に際限ない広がりを感じられる一体感のあるワンルームとなっている。

友人達を呼んで、映画上映パーティを開いたり、仕事上の勉強会を開かれたりと、空間を楽しまれているようです。

リフォーム前

before



リフォーム後

after

